

# おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—いいわけ—

NO. 76



高校生だった頃、クラスに遅刻の常習犯がいました。何かしら理由を付けて、授業の途中で登場するのですが、さすがにネタ（遅刻の理由）が尽きたのか、ある日のこと、「何で遅れたんだ？」との先生のキツイ問いかけに、「向かい風が強かったんで！」と堂々と即答。全員大爆笑でした。もちろん、それが考慮されることもなく、出席簿にはチェックが入りましたが、戒める先生の声も柔らかくならざるを得ず、なぜか明るく授業は再開しました。どうか真似しないでくださいね。

さて、ある子の日常のひとコマです。まわりから見て、困ったな～と思えてしまう場面。お友達に手を出してしまったり、順番を守れなかったり。もちろん、「手を出しちゃダメでしょ！どうしたの？」「順番は守らなきゃダメだよ」と注意をされます。お話上手なその子は、「僕はやっていません」「入っていいって言われたし」と“いいわけ”をしてきます。でも誰がどう見ても、お友達に手を出していたし、横入りしてもめていたし、「入っていいよ」と言った子はいません。「なんでウソをつくの？」と、今度はその“いいわけ”を注意されてしまいます。踏んだり蹴ったりです。そして「ごめんなさい」と、最後の決まり文句で一件落着…と思いきや、10分も経たずに、また同じことが…。これってよくある話、珍しいことではないんです。

本人はウソをついたつもりはないかもしれませんが、自分の行動を正当化しようと必死に考えた末に出てきた言葉だったのかもしれませんが。おしゃべりに見えるけれど、本当は、会話を続けるのが苦手で、言い合いになった時に、言い尽くせずに手が出てしまったのかもしれませんが。手を出さないようにすることよりも、会話上手になることのほうが、手を出さずに済むので、広い意味で大事なこともかもしれません。そして、「ごめんなさい」は、そんな時に言わなければいけない言葉として学習してきたのだと思います。でも、何をどうすればよいか、わからないで謝っても、同じことは繰り返されてしまいます。学ばなければならないことは他にあります。誰かと一緒に“なるほど、そうか！”を積み上げていかなきゃです。してしまった行為は×ですが、注意を重ねるだけでない学びの機会が必要です。本当に困っているのは、その子ですね。

自分に不利なことを言葉で説明すると、“いいわけ”になってしまいますし、話す本人も気持ちいいはずがありません。でもね、同じ説明でも、嬉しかったことや、上手くいったことの説明は、「へえ～よかったね」「すごかったね」「えらかったね」と、笑顔で返してもらえます。「お話上手になったね」と褒められます。

おしゃべり上手に見える子ども達への関わりで大事にしたいこと。そのひとつは、楽しい報告、嬉しい説明をする機会をたくさん持つことです。ポジティブな説明は、自分のありったけの言葉を引き出します。相手の話にも耳を傾けやすくなります。「それでね」と、もっと話したくもなりますね。もうひとつ、「これだけしゃべっているんだから、このくらいのことはわかっているだろう」とまわりの者が決めつけられないことです。育ちに凸凹がある子もいます。どんなことが苦手なのか、どんなこと困っているのか、見守り見立ていく大人の目が大切です。

とはいえ、誰でも“いいわけ”のない日なんてないですよ。自分を大事にするためには必要な武器です。笑ってもらえる“いいわけ”くらいで収めたいところですが…（R4. 9）K

